

新たな豚の改良増殖目標のポイントと主な変更点(案)

資料9

現行目標のポイント

- 特色のある豚肉の生産を実現するため、多様な育種資源の確保・利用を推進
- 繁殖能力(1腹当たり育成頭数等)や産肉性を改善し、生産性向上を推進

課題、方向性

- 生産コストを左右する母豚の繁殖能力(特に産子数)は、海外の先進事例に大きく遅れをとっている状況
- 雄系については、肉質面での一定の評価があるが、更に食味の面での海外との差別化が重要
- 遺伝的能力評価のほとんどが地域内等にどまっており、国内遺伝資源の利用が限定的

新たな目標のポイント

- 開放型育種の導入や産学官連携の強化による海外の先進事例に負けない繁殖・産肉能力の向上
- デュロック種雄豚についてのロース芯筋内脂肪含量に着目した目標設定
- 広域的な遺伝的能力評価に基づく種豚の選抜・育種

定性的な目標

- 繁殖能力
引き続き繁殖能力の改善を図る。
- 産肉能力
デュロック種について、ロース芯筋内脂肪含量を増加させる方向で改良を進める。
- 改良手法
能力及び斉一性の高い系統及び優良種豚群の造成を図るため、独立行政法人家畜改良センター、都道府県、民間の種豚生産者等の各関係者の広域的な連携、所有している遺伝資源に関するデータベース化や情報交換等による効率的な改良を進める。

- 繁殖能力
1腹当たり育成頭数の向上に着目した改良を強化。
- 産肉能力
デュロック種について、差別化やブランド化に資するものとしてロース芯筋内脂肪含量の高い(概ね6%)系統の作出・利用。
- 改良手法
繁殖性の向上を図るため、開放型育種の導入も視野に入れ雌系純粋種豚の改良を推進。
血縁ブリッジの拡大による種豚の広域的な遺伝的能力評価の実施。
- 飼養管理
地域の特色ある品種の活用等によるブランド化の推進。飼料利用性と増体性の向上による出荷日齢の短縮。

定量的な目標

- <繁殖能力>
- ランドレース
 - 1腹当たり育成頭数：9.9頭→10.8頭
 - 大ヨークシャー
 - 1腹当たり育成頭数：10.0頭→10.9頭
- <産肉能力>
- パークシャー
 - 飼料要求率：3.3 → 3.2
 - 一日平均増体重：710g→750g
 - デュロック
 - 飼料要求率：3.1 → 2.9
 - 一日平均増体重：870g→1,000g

- 繁殖能力(1腹当たり育成頭数)の目標値については、海外の先進的な成績を参考にして引き上げで設定(精査中)
- 産肉能力(飼料要求率)の目標値については、データ数が少ないことから、一日平均増体重と飼料要求率との相関も参考に、数値を設定(精査中)。
- 参考値としている肥育豚の成績については、出荷日齢を短縮化(精査中)。